

井筒屋町造商店が立ち上がるまで(1)

おかげさまで井筒屋町造商店は、2007年1月15日で開店満2周年を迎えることができました。

井筒屋町造商店なぜ立ち上がり、何をしてきたのかをふりかえります(肥沼位昌(立ち上げ時からの参加者・市職員)記)。

秋田祐三郎さんの想い

この建物を残して地域に役立てたい

1997年9月23日

所沢たてももの応援団 町歩き

“所沢たてももの応援団”(大平(おおだいら)茂男さん、川上香さん等がメンバー)の主催で、古いまち並みを見てまわる町歩きがありました。

その中で、今は故人となられた秋田祐三郎さんから「この建物を所沢の歴史的建造物として保存し、地域に役立てられれば…」というお話がありました。



この町歩きに参加した所沢市役所商工労政課の青木邦雄さんが、そのお話を聞いたことが、後の秋田家の建物活用の伏線となります。

秋田家の建物は、この後臨時的に“はあとねっと輪っふる”の原幸香さん、桂有史さんによるバリアフリーマップづくりの作業場として利用されたり、2002年9月には、所沢JCが主催した「ラブとこフェスタ 2002」で、所沢たてももの応援団により「所沢たてももの帖・資料展」が開催されたりしました。

「所沢たてももの帖・資料展」では、市の教育委員会が作成した「所沢たてももの帖」に関連し、解体された蔵の遺物、図面、ところざわ織物が栄えたころのマチ場の写真や水彩画などが展示され、地元の店蔵や歴史に関心が集まりました。

所沢市役所と所沢商工会議所の意図

中心市街地活性化と商店街振興

2002年3月

所沢市中心市街地活性化基本計画

中心市街地(西所沢駅周辺から所沢駅周辺及び航空公園駅をつなぐ区域)について、都市基盤整備・商業等の活性化の一体的な推進が図れるよう『所沢市中心市街地活性化基本計画』が策定されました。

蔵の活用提案

その『基本計画』には、「民家・蔵の活用事業」が盛り込まれ、その事業の具

体化として、秋田家蔵等の活用が課題となります。2002年頃から、柏屋陶器店、佐野屋商店、灰屋呉服店、井登喜商店、婦多佳美、吉村家具の土蔵などが相次いで閉店・解体となり、街全体の風情が無くなり、寂しいまちな

なりつつありました。そうした中で秋田家の存在が大きく注目されたのです。2003年、斎藤市長の政策マニフェスト(選挙公約)では、「商業とサービス施設の拠点として、また誰もが気軽に集うことができる憩いの空間として新しい人の流れをつくり、企業活動や商店街の活性化、起業家支援などに努めます。」とあり、秋田家の建物の活用を連想させるような内容となっていました。

しかし、それ以前に策定された『所沢市中心市街地街並み整備計画』などにより、再開発による建物の高層化を推進されており、蔵を残そうとすることは、この方針に逆行するのではないかと一部意見もあつたようです。結局、秋田祐三郎さんの想いを受け継がれた当主秋田芳浩さんや市長の決断により、秋田家の建物をまちの活

性化や商店街振興のため活用していくことに決まりました。

2003年12月

所沢TMO検討委員会

『所沢市中心市街地活性化計画』に基づき、所沢市役所と所沢商工会議所が事務局となり、委員19名のTMO検討委員会が立ち上がりました。検討委員会の委員長の鈴木進さんは、現在、井筒屋町造商店にスタッフ兼理事です。

* TMO (タウンマネージメント機関、Town Management Organization) まち活性化を総合的に企画調整したり運営する機関

実践部隊ワーキンググループ

秋田家蔵活用の具体化に向けて

2004年3月

TMO検討委員会ワーキンググループ

TMO検討委員会の下に、具体的な検討を行う実践部隊としてワーキンググループが設置されます。各団体推薦の人など、最終メンバーは45名になりました。ワーキンググループのメンバーのほか、TMO検討委員会の委員も、希望者は参加していました。



参加者がグループに分かれて話し合うワークショップ形式を多く採用し、ほぼ月1回のペースで、所沢商工会議所301会議室で検討しています。

今までハードな町並み整備については考えてきたけれど、どのように人と人をつないだりコミュニティをつくるかは考えてこなかったなあ…(ワーキンググループに参加したある地元商店主のこぼれ)

このワーキンググループ参加者の中の一部有志が、井筒屋町造商店の立ち上げ時のスタッフとして、中心的な役割を果たすこととなります。